

「論語からのお話」参加者の声

「ご縁をいただいて

田中愛子

中学三年になった時、週に一回、漢文の授業がありました。杜甫、李白の詩を学ぶ中で、孔子の「恕」という言葉に出会いました。

「己れの欲せざることに人にすることなかれ」
多感な年頃であったこともあり、以来私の座右の銘の一つになりました。過ぎこしの七十数年、山、坂につまづいたこともありました。その折々に格言、箴言が私を助け、生きてゆく指針になってくれました。

「春風を以て人に接し秋霜を以て自ら慎む」
儒牛（無用の用）もある時期私を支えてくれました。曹洞宗とのご縁もいろいろありました。

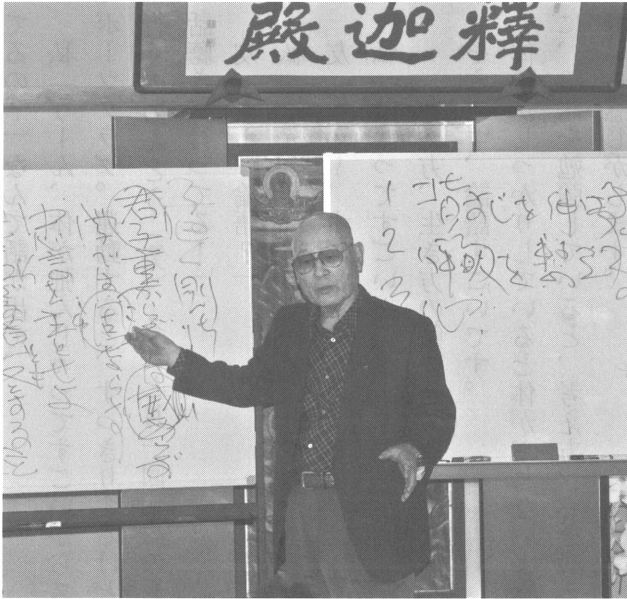
幼少期、祖父母の家に預けられていた私は、いつも祖母の後について「のの様」と言いながら神さま仏さまにご飯やお水、お茶を供えています。祖母は信仰心の篤い人でした。

お坊様の唱えられる「なむからたんのー（南無喝囉怛那）、とらやーやー（哆囉夜耶）」が耳に残っています。

年を重ね、やがて夫の転勤先で駒澤大学の聴講生となり、宗教学、中国思想史の講義も受けました。孔子、孟子、荘子、荀子、老子等の禁帯出の本を大学のご好意で特別に貸出を許さず読んで読みました。大半のことは忘れてしまいましたが、いくつかのことは時に思い出します。

父方、母方ともに曹洞宗。そして現在、田中

の墓は日野霊園にあることから、善光寺様とご縁をいただいで坐禅や写経、論語の勉学に励んでいます。



論語の第一回講義の時は大雪でしたが、先生は大阪から来られるのだからと、バスの運行がない中、上大岡から善光寺まで雪に足をとられながらも一生懸命歩きました。私は檀家ではありませんが、善光寺様はあたたかく迎え入れて下さいました。そして教室では東郷先生の人生経験豊富で豪放磊落なお人柄に触れました。

私は脳の老化が進み、せっかくのお教えも忘れてしまいますが、最近、海馬も磨くことにより再構築されるということを知り、脳の活性化をはかると共に、「恕」を生涯の座右の銘として貫きたいという思いで講座に参加させて頂いております。今後ともよろしく願います。

論語すこいです

越石洋子

いつも論語のお話楽しみにしています。
先日会った友達との会話で「最近なにかやっ

てるの？」なんて話が出て、

私「うーん、体が弛んじゃってすごいからスポーツクラブ。運動すると、すっきりするけど行くのめんどろ（笑）。それと月一回論語のお話聴きに行ってる！」

友「えー、論語？」

私「そうそう、子曰くっていうやつ」

友「へえ、すごいねえ」

私「論語ってすごいんだよー！」

考え方、生き方の勉強って感じかな」

そうです、論語すごいです。

体幹がしっかりしていると体がぶれないように

に、論語を勉強していると、考え方、心を鍛えている感じがします。

先生の話はよく脱線します。それがまたすごく面白い！ 聴いている私たちを巻き込んで座談会が始まり、大笑い。夫は、ある日突然倒れ、どん底の中、回復に二人三脚。不測の事態に夢

も笑いも幸せも飛んでいってしまいました。そんな時学習会に参加。笑えない日々が笑えるようになってきたのです。以来皆勤しています。まさしく「わろてんか」の世界に引き込まれ新しい歩みを二人で共有出来るようになったのです。

私は、皆さんと過ごす論語のお話が大好きで、大切な時間です。その日は、お墓参りをして、お釈迦様、ご先祖様に手を合わせ、私の大事な人を助けていただいたおびんづる様にさわって、論語を聴き、終わりにお菓子をおひとつだけ貰って帰る。感謝感謝です。

「WORK」や「LABOR」の違い

濱中康史

私の仕事は刑務官です。刑務官の仕事とは罪を犯した受刑者の改善更生であり、その一環で受刑者に刑務作業をさせるための色々な工場が

刑務所の中にあります。それぞれの工場に刑務官がいます。私は昨年まで七十〜八十名の人数を担当する工場担当を十七年間やっていました。刑務所の中で工場を担当する刑務官は、直接受刑者と接する機会が一番あり、日々その生活指導、改善更生に向けた助言をすることが主な役割です。

工場では毎日受刑者全員が整列した際に担当からの訓示があります。なぜ訓示が必要かと言うと、工場の中には色々な人間がおり、強い者、弱い者、わがままな者、人の嫌がることをする者など様々な人間と集団で生活する中で、工場担当者は、喧嘩や論争などがないように指導するため訓示をすることが必要なのです。

私が論語と出会ったのは、ある人から「和して同ぜず」という言葉を聞いて、これは何の言葉なんだろうと思ひ、調べてみたことからです。調べると論語だったことがわかりました。そこ

から興味が湧き、論語の本を手にとるようになりました。そのような中、母から善光寺さんで東郷先生の論語のお話があると聞いて、聴講させていただくようになりました。

私が訓示でよく話すのは「恕」と「仁」についてです。「おもいやり」は集団生活をする上でなくてはならないことであり、相手の立場に立つこと、自分一人でいるわけではないということを話します。そのような話をしていると、受刑者も興味が湧いてくるようで、論語の本を購入する者が増えてきました。

私が月に一回、論語の勉強に行っていることも話したことがあり、東郷先生のお話で聞いた「WORK」と「LABOR」の違いについて引用させていただいたことがあります。みんな返事がよくなりました。

自分自身のこと、仕事をする上でも、東郷先生のお話はとても勉強になっています。これ

からも勉強をしていくのでご指導よろしくお願
いします。

変化する自分に巡り会った瞬間

轟木完次

「論語からのお話」に初めて参加してから、
二年半となりました。

最初の印象では難解だと思っていた論語を、
難しい言葉を使わずに、初めて論語に触れる者
にもわかりやすく、かつ事例を示しながら解説
されるので、「これは勉強する機会だ」と思い
ました。

論語を習い始めてから一年が過ぎた頃、横断
歩道を渡る時、止まってくれた車の方に礼をし
ながら渡っている自分に気が付きました。些細
なことですが、これらの積み重ねが論語を勉強
している効果といえるのではないかと思い、少
し嬉しく思ったことを覚えています。これは大

きく変わった自分自身に巡り会った瞬間でした。

未来と自分は変えられる

山田信子

平素よりお世話になっております。

良い日もあれば、つらい一日もあります。ふ
とそんな時に思うのは論語の学習のことです。
「あと何日で論語の教室で友達に会える」と。
心の通う仲間です。楽しい話をし、笑顔で帰っ
て行く時、幸福を感じます。家においても何をす
るでもなく、一人部屋にこもっているだけ。
「道理を知っていても実行が伴わない」感
じ。

「過去と他人は変えられない」

深く心に刻みます。未来と自分は変えられる
……感謝の心はいつも忘れないように思ってい
ます。まだまだ未熟な自分であること。

でも、東郷先生のお陰です。論語論語と毎日

思い出し、やっと心がしずまってきました。今は、使わない物は全部捨てています。人にあげたりして喜んでいただいています。

心の隅にいつも伊勢神宮を思い出すと心がゆるみます。小六の時に遊びに行つた思い出です。いつまでもいつまでも大切にしたいと思います。

心に栄養を与え続ける

竹達笑子

「論語ですか。難しいでしょうね。」

漢文も読んだことのない私には、所詮無理な話と、三年前この講座に友人から誘いを受けた時の心境でした。友人の熱心さに一度くらいはおつきあいで参加しようと、軽い気持ちでした。最初は先生の話を身構えて聞いておりましたが、興味ありませんでしたが、講義が進むにつれて、その世界に引き込まれていきました。古い大昔の書である論語が現代に通じ、それ以

上に今失われつつある人間性を掘り起こす、貴重な教材になっているとは、「目から鱗が落ちる」とはこのことだと痛感したのです。

はじめの五分間の瞑想で雑念を払い、集中力を高めての勉強です。講座のタイトルである「論語からのお話」そのまま基本に忠実でありながら身近な問題を絡ませながらの先生の巧みな話術に時間を忘れます。

「論語読みの論語知らず」の諺がありますが、この講座では一度も「論語を読破しましょう」と言われたことはありません。論語の心を教えて頂きます。

私はいまだに一節もすらすらと読めるまでに到っておりませんが、少なくとも教えて頂いた論語の心は理解できます。心に栄養を与え続ける為にもこれからも参加して勉強を続けたいと願っております。